

令和6年度 西都市立三財小中学校 学校評価書

学校経営ビジョン	「自立」、「探求」、「貢献」をキーワードに教育活動を展開し、基礎学力と総合的な学力を身につけさせるとともに、家庭と地域と連携し、それぞれの子どもの良さや可能性を最大限に引き出し、子どもの姿を通して、信頼される学校を目指す。
----------	---

■=4と3の評価が80%以下の項目

【評価】 4：そう思う 3：ややそう思う 2：あまりそう思わない 1：思わない

教育目標	本年度の重点目標	評価項目	4と3の割合 (%)			自己評価 A:100-90 B:89-80 C:79-0	考察及び改善策	学校運営協議会委員の見解		総合評価	
			1~4年 5~6年	保護者	教師			評価	意見		
黒土大地のもと、三つの財(たから)をもち、地域に貢献する児童生徒の育成	信頼される学校づくり	1 小中一貫性のメリットを生かした指導を行っている。	88	87	92	B	○ ①について、小中一貫12年を経て、小と中の良さを児童生徒も職員も実感し、高い評価が得られている。R8年度から小学部だけとなるので、来年は学校と保護者、地域の方々にもご意見をいただきながら、活動や行事等を工夫していく必要がある。	A	○ 小中一貫がスタートした時より、年々メリットを生かした指導がなされていると思う。児童生徒数が20名前後で、目の行き届きやすさもあるのではないだろうか。	A	A
		2 通信やホームページ等を通して積極的に情報発信をしている。	79	85	100		○ ②について、職員が輪番制でHPのアップを行い、常に新しい子どもたちや学校の様子を提供することができた。保護者からも、修学旅行等での子供の様子がわかって嬉しいという声もあった。児童生徒については、閲覧したいと思えるような内容やHPの紹介の仕方を工夫する必要がある。		○ 朝や下校など非常によくあいさつしてくれる。		
		3 学校運営協議会を中心に地域の人材を活用した取組を積極的に行っている。	88	85	92		○ ③について、各学年、学校運営委員会や民生委員、地域づくり協議会の方々に協力していただき、花の種を植え活動、地域にまつわる講話、登下校を見守りなど、児童生徒が安心して活動に取組むことができ大変ありがたかった。		○ 民生児童委員として登校の見守りや、学校までの安全点検を兼ねて歩いていたが、校門までは保護者の責任ということで、途中で何かあった時は責任問題が出てくると思った。		
		4 児童生徒への支援が適切に行われている。	92	82	100		○ ④について、先生方の日ごろの細やかな手立てや指導が実を結び、児童生徒の高い評価を得ることができている。		○ 保護者も徐々に入れ替わり、必ずしも皆に理解が得られないと思うと、ボランティアの在り方について問題提起したり、明確にしたりする必要性を感じる。		
		5 働き方改革が進められている。	/	/	/						
	基礎学力の向上	6 Qubenaやスマイルドリル等を活用した個別最適な学習が推進されている。	88	72	92	B	○ ⑥について、学校では毎日のようにタブレットを活用した学習を行っており、児童生徒も教員のスキルも年々上がっている。しかしSNSでのトラブルも多々あり、家庭での活用が全学年は進められなかった。今後は情報モラルやルールを保護者と共有して、確実に守らせることが必要である。	B	○ どの教科・授業でもタブレットをよく使用しているが、家庭に持ち帰っての使用は少ないと感じた。	B	B
		7 「家読（うちどく）」やぐんぐんタイム、家庭学習と朝自習の連携などを通して、読解力を高めるような取組が行われている。	87	80	96		○ ⑦について、昨年度は4や3の評価をする児童生徒が小学部が6割弱、中学部は3割しかいなかつたが、今年は小学部の「うちどく」や中学部による読み聞かせも活発になされ、少しずつ高評価につながってきている。		○ 家庭のネット環境にもよると思うが、学年が上がるにつれて家庭での使用を増やせたら良いと思う。		
		8 児童生徒が「分かる・できる」と感じるような指導を行っている。	88	81	100		○ ⑧について、小学部のぐんぐんの時間や中学部の財スタの時間を使って、確実に予習復習ができた。またタブレットの活用力も身に付き、自分のベースでドリルを進めていくことができたため「わかった」と実感する児童生徒が多かったと思われる。		○ 12, 3年前に外国ではタブレットで宿題をしていると聞き、日本のICT活用は遅れている驚いていた。しかし、最近では日本（いや三財）でゲーム、スマートでの遊びに夢中になってる子が多く見かけ、いつも勉強しているのか、全く見えないのが心配。		
		9 児童生徒のレディネスを把握するためにICT機器を効果的に活用している。	/	/	/		○ ⑨について、授業前に子供のレディネスをそろえることが「わかる・できる」授業につながることを、職員で再確認し、今後も取組を進めていきたい。				
	総合的な学力の向上	10 児童生徒が地域の行事や活動に積極的に参加したいと思うような指導を行っている。	67	73	88	C	○ ⑩について、家庭生活や部活動の事情もあって難しい面もあるが、何らかの形で児童生徒が関わることができるように、地域づくり協議会や学校運営協議会、民生委員の方々とも協議していきたい。	B	○ 限られた時間の中で、よく地域の活動に参加している方だと思うが、小学生の参加は少ない。	B	B
		11 教科やさいと学の学びにおいて、子どもたちが自ら課題を見つけ、問題を解決していくといった指導が行われている。	78	59	96		○ ⑪については、まだ教師が主導となって進めていたので、「自分たちの力で」という意識が薄かったと考えられる。来年度は、教員も児童生徒も今年の反省を生かしていくのではないかと考える。		○ 英語や海外に興味を持つには、海外に行ったことのある人の実体験を話してもらうはどうだろうか。また、音楽やアニメなど日常的に使える英語の方が興味は持ちやすいと思う。		
		12 児童生徒が英語や海外に興味があると答えるような指導を行っている。	66	47	80		○ ⑫について、保護者が低評価なのは、学校での英語に関する取組や活動の様子を知らないという実態がある。HP・参観授業等でも伝えていく必要がある。また、英語や海外の文化の触れさせ方について、学校も工夫の必要がある。		○ マンネリ化を打破しても、もっと地域の大人も児童たちと交わる・語り合える場が欲しい。		
	自己肯定感と豊かな人間性の育成	13 児童生徒による学校行事の企画・運営が積極的に行われるなど、児童生徒の主体的な活動が展開されている。	/	86	81	B	○ ⑬について、今年度は特に、「子どもたちを主体に」ということで職員も児童生徒も一丸となって行事に臨んだので、その成果が高評価となっている。	A	○ 運動会を見ても去年より児童生徒が主体となって行動していたと思う。	A	A
		14 学校行事の前後の指導が充実しており、児童生徒のやる気や満足度が向上している。	87	76	88	B	○ ⑭について、学校では、行事前のめあての設定や行事後の振り返りを行うことで、児童生徒のやる気を向上させようとしてきた。保護者にも、懇談や通信などで児童生徒の頑張りを伝え、家庭でも児童生徒を賞賛し合えると高評価につながっていくと思われる。		○ 大変大事なことだが、将来の夢やなりたいもの、やりたいことについて意欲的に語る子が少なく感じる。そんなに夢のない時代なのかと思う。		
健康・安全意識と体力の向上	15 自分や周りの命の大切さを考えさせる指導を行っている。	95	91	100	B	○ ⑮について、授業や校内放送・掲示板を使って、命の大切さについてじっくり意識させることができた成果だと考えられる。また、通信等でも啓発している学級もあり、家庭と一緒に考えたり、話したりするよい機会になった。	B	○ 社会が多様化している現在、子どもの個性も多様化している。個々にあった学習生活指導があつて欲しい。	B	B	
	16 S Sカード記入を定期的に行なせ、基本的な生活習慣の実態把握と保護者への啓発に努めている。	88	63	100		○ ⑯について、SSカード（年間8回）を活用し、基本的な生活習慣の育成を図っているが、「できている」という認識に子供と親に差がある。参観日や保健委員会で保護者からの実態も聞きながら、子どもたちとの意識をそろえ、啓発していく必要がある。		○ 命の授業はよく参観している。			
	17 体力向上プランに基づいた授業の充実と体力向上の活動の充実に努めている。	79	83	76		○ ⑰について、2学期は雨天の関係や熱中症指数が高かったため、体育の授業や屋休みの遊びに時間制限がかかり、思い切り体を動かして運動ができなかった。今後もこのような事が続くと考えられるので、体力向上についての工夫が必要である。		○ 学校が休みの時、地区内の安全パトロールをするが、子どもたちを見かけることがほとんどない。			
	18 安全、防災意識の育成が図られている。	92	86	88							